「『こんにちは県議会です』～高校生との意見交換会～」開催概要

１　開催日時　　令和４年12月７日（水）午後２時30分から午後６時00分
２　開催場所　　議会棟　404・405号会議室
３　出 席 者
〇県下８高校の１～２年の生徒16名、校長、教諭等の学校関係者
参加生徒・・・長野西、上田染谷丘、諏訪清陵、諏訪二葉、伊那北、飯田風越、
松本県ケ丘、豊科

〇丸山 栄一議長、髙島 陽子副議長
〇広報委員
竹内 正美議員、寺沢 功希議員、清水 正康議員、和田 明子議員
〇会派選出議員
宮下 克彦議員、望月 義寿議員、小池 久長議員、両角 友成議員
４　開催内容
議会傍聴、プレゼンテーション、グループディスカッション、意見・感想等の発表
５　プレゼンテーション及びグループディスカッションテーマ
①「長野県の課題を解決し、魅力を広げるには？」
②「学校における進学説明＆学力評価」
③「今の校則に不満はありませんか？」
④「学校内のＩＣＴ格差」
⑤「いじめをなくすには」

６　参加者　40名（議員10名、生徒16名、傍聴者14名（学校関係者含））

○開会

（司会：髙島副議長）

皆さん、こんにちは。定刻となりましたので、ただいまから「『こんにちは県議会です』～高校生との意見交換会～」を開会いたします。

会場にお集まりの高校生の皆さん、ようこそ長野県議会へお越しいただき、誠にありがとうございます。私ども議員一同、本当にこの日を楽しみにしておりました。

私は、本日の司会を務めます長野県議会副議長、そしてこの広報委員会委員長を務めております髙島陽子です。よろしくお願いいたします。

○長野県高等学校長会長あいさつ

（髙島副議長）

それでは、長野県高等学校校長会の会長で、飯田高等学校校長の駒瀬隆会長より挨拶をお願いいたします。

（駒瀬会長・飯田高等学校校長）

皆様、こんにちは。ただいま御紹介いただきました長野県高等学校校長会会長を務めています飯田高等学校の駒瀬隆でございます。

本日は、丸山県議会議長様、髙島副議長様はじめ県議会の皆様、さらには議会事務局の皆様におかれましては、議会中という多忙にもかかわらず、高校生との意見交換会を開催していただきまして誠にありがとうございます。感謝申し上げます。

また、これまで夏合宿などで仲間と議論を深めた実行委員会の生徒の皆さん、それぞれ大いに刺激し合い、新たな気づきがあったことでしょう。そして生徒の活動を温かく見守ってきてくださった先生方、誠にありがとうございます。

資料を確認してみますと、このような形で県議の皆様と高校生との意見交換は、平成 29 年に現教育長である内堀教育長が校長会長のときに、当時の副議長であった諏訪県議に話を持ちかけたことがきっかけで始まり、今回で８回目を数え、これまで様々なテーマで活発な意見交換がなされたと伺っております。

他県の旧知の校長数名に長野県のこの取組について話すと、高校生が県議会議長をはじめとする県議の皆様と直接意見交換をしていること、また、校長会が生徒の主体性を育む場、機会を設け、高校生も主体的に参加していることに非常に驚かれ、かつ羨ましがられてもおります。

さて、本日の会議ですけれども、長野県の未来への提言や、また高校生にとっては切実な事柄である「進路」「学力」「校則」「ＩＣＴの活用」「いじめ」の五つのテーマについて意見交換をしていきます。

高校生の皆さんは臆することなく、日頃自分が考えていることや思いを、県議の方々に伝えてもらい、この会の企画目標でもある広い視野から活動を見直すとともに、社会との接点を見いだすことに役立ててもらいたいと思っております。

また、県議の皆様方におかれましては、ワールドカップのサッカーで躍動した若い選手たちのように、無限の可能性を秘め、これからの社会を切り開き、あるいは長野県の未来を担っていくことになる生徒たちの生の声、考えに直接触れていただき、今後の県政に反映させていただければと思っております。

限られた時間ではありますが、対話を通じて有意義な時間を共有し、コロナ禍での漠とした不安を取り払うことができますことを願って、甚だ簡単ではございますが、挨拶に代えさせていただきます。

本日はよろしくお願いします。

（髙島副議長）

ありがとうございました。

○出席議員の紹介

（髙島副議長）

それでは、本日出席の県議会議員を紹介します。

初めに、長野県議会の丸山栄一議長です。

（丸山議長）

議長の丸山栄一でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

（髙島副議長）

それでは、１班から順に紹介します。

改革 ・創造みらいの寺沢功希議員。

（寺沢議員）

よろしくお願いいたします。

（髙島副議長）

日本共産党県議団の両角友成議員。

（両角議員）

よろしくお願いします。

（髙島副議長）
自由民主党県議団の竹内正美議員。

（竹内議員）
こんにちは。よろしくお願いいたします。

（髙島副議長）
改革 ・創造みらいの望月義寿議員。

（望月議員）
よろしくお願いします。

（髙島副議長）
県民クラブ公明の清水正康議員。

（清水議員）
よろしくお願いします。

（髙島副議長）
自由民主党県議団の宮下克彦議員。

（宮下議員）
皆さん、こんにちは。よろしくお願いします。

（髙島副議長）
日本共産党県議団の和田明子議員。

（和田議員）
どうぞよろしくお願いいたします。

（髙島副議長）
県民クラブ公明の小池久長議員。

（小池議員）
こんにちは。出身は富士見町です。よろしくお願いします。

（髙島副議長）
以上でございます。
では、今日の進行方法について説明いたします。
本日の「こんにちは県議会です」は、高校生が県議会を身近に感じ、県政に関心を高めていただくとともに、高校生の意見や考え方を今後の議会活動に役立てるため、高校生と意見交換を行い、県政に反映させるという趣旨で行うものです。
まず、生徒の皆さんから、次第にあります五つのテーマについて、それぞれ３分程度でプレゼンテーションをしていただきます。プレゼンテーションが終了しましたら、発表のあったテーマに関してグループディスカッションを 45 分間行います。班ごとに話し合うテーマを決めてありますので、それぞれのテーマでディスカッションをお願いします。
進行は、各班の担当の生徒さんにお願いします。
意見交換は結論を求めるものではありませんので、活発な議論をお願いします。
時間の目安として、残り時間 10 分となりましたら事務局からアナウンスをします。
グループディスカッション終了後、各班の生徒さん、議員のお一人ずつから意見交換を終えての感想などを発表していただきます。その時間の目安は、生徒さん、議員それぞれ２分程度としておりますので、よろしくお願いします。以下同様にして、５班まで順番で発表を行います。
進行方法についての説明は以上です。
なお、今日のこの様子ですが、広く県民に広報するため、この本日の概要につきまして後日長野県議会のホームページに掲載させていただきますので、よろしくお願いいたします。
それでは、開会セレモニーはここまでで、プログラムに入ります。

○高校生によるプレゼンテーション

（髙島副議長）
それでは、高校生の皆さんのプレゼンテーションを始めます。スクリーンは、この正面、そして後方に二つありますので、皆様それぞれから見やすいほうを御覧ください。
それではよろしくお願いします。
まず、１番目のテーマは「長野県の課題を解決し、魅力を広げるには？」です。それでは、発表をお願いします。

（１班　発表者）

皆さん、こんにちは。１班では、これまで「長野県の課題、魅力を広げるには？」というテーマについて、また、「長野県の課題を解決し、魅力を広げるためには？」という問いについて話合いを重ねてきました。そこで考えた１班のゴールは、「みんなが長野県の未来をこれからも考えるきっかけになること」です。

長野県の課題を、飯田市長の佐藤さん、飯田市結いターン移住定住推進課でお勤めなさっている小原さんにお聞きしました。そのとき佐藤さんは、４年制大学が少ないこと、また、４年制大学に行くなら県外になってしまうということについておっしゃっていました。現在僕が住んでいる飯田市では４年制大学が一つもなく、４年制大学に行くには県外に行く、また、飯田市から離れるという選択肢がとても多くなってしまいます。

そして小原さんは、若者が都市部への進学を多く希望すること、また、それに伴った人口減少が課題だとおっしゃっていました。僕が住んでいる飯田市も人口減少が問題視されており、数年後には、人口がかなり少なくなってしまうということが予想されています。

その話合いから、地方への移住の関心が高まっているが魅力を伝える若者の人数が少ない、また、都市部から戻ってくる人が少ないということが課題だとして挙げられました。

長野県の魅力を伝えるには、ＳＮＳでの発信、教育機関での発信、広告作成などが列挙されました。

また、長野県にはこのような魅力がたくさんあります。まず、上諏訪の五つの酒蔵、そしてウィンタースポーツ、安曇野のわさび、レタスなどかなりの魅力があり、また僕が住んでいる南信州でも、市田柿という全国的に有名な柿が魅力の一つとして挙げられています。

そのような長野県の魅力を広げるために、県への要望は、公共交通機関をもっと便利になるように整備してほしい。また、若者からお年寄りまでが気軽に集まれる場所が欲しいということ。また、自分たちができることは積極的にＳＮＳなどで発信するということです。
これで１班の発表を終わります。

（髙島副議長）

ありがとうございました。

続いて、２番目のテーマは「学校における進学説明と学力評価」です。それでは発表をお願いします。

（２班　発表者）

２班です。私たちのテーマは「学校における進学説明と学力評価」「多種多様な私たち学生の進路決定で必要になるものは？」です。

９月に行われた交流会で、県内から集まった高校生に各校の進路指導について聞いてみると、学校ごとに特色があることが分かりました。

これまで進路についてどんな悩みがあるか出してみると、科目選択や具体的な目標が定ま

っていない焦り、金銭面での心配など、同じような悩みを持つ高校生がたくさんいました。
　さらに進路決定をする際には、視野を広げること、夢を実現できる学校に行くことなどを大事にしたいという声がありました。
　また、目的を持って自分の人生を楽しみたい、周りの意見に流されないといった将来の理想の自分の姿についても話し合いました。話していくうちに、高校の進路指導に対する高校生の目線からの要望が明確になってきました。
　主な提案は三つあります。
　一つ目は他校との交流です。進路について話すにしても、校内だと進学先に偏りがあります。視野も広まるのではないかという考えから、他校の生徒や先生を交えた交流会を行う機会が欲しいという声が上がりました。９月に行われた交流会で、私たちも、自分と同じ境遇の人と話すことが悩みの解決につながったり、共感を得られることも一つの安心要素になりました。
　二つ目は、生徒が望む講演会です。外部講師の方を招いて講演会を行う高校は多くあるかと思います。そこで生徒自身が興味があること、活かされるお話をお聞きし、さらに視野を広げたいと考えます。
　三つ目は、生徒に寄り添った進路指導です。生徒の夢を第一に考えてくださる先生方がほとんどですが、どうしても学歴を重視した指導をされている学校があるため、個々の目標に沿った指導をお願いしたいです。
　以上のことに対して私たち生徒ができることとして、会場・必要物品の準備や当日の運営、また一生徒として進路への関心を持つことが挙げられました。
　これまでのディスカッションや本日の発表の場を通して、県内の高校における進路指導と学力評価がより良くなっていくことを願います。
　御清聴ありがとうございました。

（高島副議長）
　ありがとうございました。
　続いて、３番目のテーマは「今の校則に不満はありませんか？」です。それでは発表をお願いします。

（３班　発表者）
　こんにちは、３班です。３班では、身だしなみの校則に対しての不満や疑問について話し合いました。
　これは、校則はあるべきという論題について、肯定派と否定派に分かれてディベートをした結果です。
　肯定派では、校則にあやふやな部分があり、それに正確なルールをつけ具体化することや、

学校という集団生活の中では校則はあるべきだという意見で、否定派では、あやふやな部分があるからこそ校則をなくせばいいことや、身だしなみが自由になったところで集団生活を乱すことはないという意見でした。

ディベートをした結果、あやふやとは何かという話合いになり、各高校の生徒手帳を見てみると、このようなあやふやな用語が使われていました。

資料でお示ししたのは、諏訪二葉高校の生徒手帳の内容です。高校生らしさとはどのようなものだと考えますか。私たちが高校生らしさについて考えた中では、たくさんの考え方があり、人によって考え方が違うことが分かりました。こんなあやふやな言葉が使われている校則は変えたほうがいいと考えます。

次のページは、文部科学省の資料から抜粋したものです。ここでは「校則を自分のものとして捉え、自主的に守るように指導を行っていくことが重要」と書いてありますが、校則に疑問を持ち、不満を抱いている生徒は少なからずいると思います。そんな校則を自分のものとして自主的に守ることができるのでしょうか。また、校則とは「絶えず積極的に見直さなければならない」と書いてあります。本当に見直されているのでしょうか。

そこで私たちは、こんな提案をしたいです。生徒間や卒業した先輩と話す機会を設けてもらうこと。生徒が意見を言えたり聞けたりする機会を設けてもらうこと。最後に校長先生による校則の説明です。校長先生による説明で生徒が納得できるものがあれば、生徒たちも不満なく校則を受け入れてくれると思います。また、その説明の中でも、校長先生が一方的に説明するのではなく、生徒からの質問にも答えることが大切だと思います。

私たちは校則がしっかり見直されることを願っています。

御清聴ありがとうございました。

（高島副議長）

ありがとうございました。

続いて、４番目のテーマは「学校内のＩＣＴ格差」です。それでは発表をお願いします。

（４班　発表者）

これから４班の「学校内のＩＣＴ格差、学校内でのＩＣＴ格差を無くすためには」の発表を行います。

まず最初に、私たちのグループは、９月に行われた交流会で、各学校のＩＣＴ化率を参加者に調査しました。この調査は、プロジェクターやＩＣＴ端末、授業内での活用度合いを参加者自身に数値化してもらう形で実施しました。また、この調査は主観的な調査方法のため、正確な値ではないということは理解の上、見ていただきたいです。

母数は 10 人で、松本県ケ丘、梓川、田川、諏訪清陵、諏訪二葉、飯田の各高校から調査しました。それらを平均すると約 80％という結果が得られました。この結果を受けて、残り

20%は何ができるか、何が課題かを議論しました。

挙がった課題として、デジタルとアナログのバランス、教師への要望、中高でのＩＣＴ機器の連携、物理的問題の四つがあります。

まず一つ目は、デジタルとアナログについてです。これは全てをＩＣＴ化せず、アナログでもいいというところはアナログのままにするということで、全体としてちょうどいいバランスを取るということです。ＩＣＴ化によって膨大な写真や動画などのデータがインターネット上にあり、今まで見ることができなかったものが簡単に見ることができるという面がありますが、全てをネット上で完結させてしまうのはあまりよくないと私は思います。そして実物に触れるということが大切だと私は思います。

私が通っている諏訪清陵高校で大正期に中学教師として勤務していた三沢勝衛氏は、「人の考えたことなど覚えてどうなる。自分で考えろ。自分で考えるために実物に触れろ」という言葉を残しています。この言葉のように自分で考え、そしてその考えを人と共有して学びを発展させていくことが重要だと思います。その手段の一つとして、ＩＣＴ機器を、アナログとバランスよく活用することが大切だと思います。

続いて二つ目は、ＩＣＴ機器の使用に関する教師への要望・課題です。これは交流会の議論でも一番多く出ました。具体的には、教師によってＩＣＴスキルに差があり、クラスや講座によって、ＩＣＴ機器を使った授業の形式に差があるなどの問題が発生してしまうことです。また、教師全体でＩＣＴ機器に関する共通の認識がなく、結果として、生徒たちの混乱を招く事態となってしまう可能性もあります。

交流会では、学校ごとにＩＣＴ管理局というものを設置し、ＩＣＴスキルのある有志の生徒を募集、局員とする組織を立ち上げるという方式がいいのではないかという意見や、教職員内での認識の統一のために、ＩＣＴスキルのある教職員たちが主体となってＩＣＴ研修を実施すればいいのではなどの意見が出ました。

三つ目の中高でのＩＣＴ機器の連携は、中学校から高校へ進学する際にパソコンなどのＩＣＴ端末の機種が変わってしまい、どのように扱えばいいのか戸惑ってしまうということでした。県内の多くの中学校や高校では、Chromebook か、Windows の端末が配備されています。県内の高校では、ＢＹＯＤ（Bring Your Own Device）といい、自分の端末を自分で用意し、学校で使うという形式を取るところが多く見られます。

その課題を解決するためには、全高校統一のガイドラインを県教育委員会などが主体として作成するなどの意見や、中学校入学時からＢＹＯＤにして、その端末を高校まで引き継げばいいのではという意見が出ました。

また、ＩＣＴ機器を授業内で使用するに当たり、授業内でのＩＣＴ機器の使用を評価する体制も整える必要があるのではないかという意見も出ました。これは私たちが毎学期ごとに回答している匿名性を担保した授業評価アンケートに似た形式で実施すればよいのではという意見が出ました。

最後に四つ目は、先ほど説明した中高でのＩＣＴ機器の統一に関わるパソコンやWi-FiなどのＩＣＴ機器の物理的問題です。これは県内の中学校や高校でも使われているタブレット機器などにもよりますが、重い端末を授業ごと持ち歩いて移動するには生徒にとっては大きな負担と感じるという意見が出ました。この課題を解決するためには、生徒一人一人に最適な端末をカスタマイズするなどの意見が出ました。

また、交流会では、端末によって使えるアプリケーションが違うということがあり、この格差を解決するためにはユニバーサルなアプリを使うという意見が出ました。

また、タブレットを使って授業に関わる資料を検索する際に、突然サイトが規制されて閲覧できないことなどがあります。この問題を解決するためにWi-Fiの規制を緩和していただくということを県教育委員会にお願いするなどの意見が出ました。

今日発表した課題はまだ一部にすぎません。これからさらに教育現場でのＩＣＴ化が進むと、今まで以上に様々な問題が出てくると思います。それらの課題に対してどのようにして対処していくかを議論していくことが大切だと思います。

御清聴ありがとうございました。

（高島副議長）

ありがとうございました。

続きまして、いよいよプレゼンテーションのトリとなりました５番目のテーマですが、「いじめをなくすには」です。それでは発表をお願いします。

（５班　発表者）

皆さん、こんにちは。私たち５グループは「いじめをなくすには」という議題について交流会で話し合いました。

今回の説明順としては、交流会当日について、ネットいじめについての考え、学校いじめについての考えについて話していこうと思います。

交流会当日は、ネットいじめと学校いじめでグループに分け、各グループで、いじめはなぜ起きるのか、いじめの解決方法、いじめを未然に防ぐ方法の順に話し合いました。

それでは、まずネットいじめのほうから話していこうと思います。

まず、いじめはなぜ起きるのかということですが、「発言のハードルが低い」ということです。発言のハードルが低いことで失言への批評が行われやすいです。また、匿名であることから責任のない発言が可能となってしまうところが原因にあると考えています。

そしていじめを未然に防ぐ方法ですが、ネットいじめについては、いじめのパターンが三つあると考えました。まず一つ目にリアルからネット、二つ目にネットの中の友達からネット、そしてネットからリアル。資料には、リアルからネットの場合と書いてありますが、これは３パターン共通の未然に防ぐ方法です。

まず一つ目、義務教育でネットリテラシーに関する教育を導入する。二つ目、ストレスの解消方法を探すということです。

また、ネットの運営側としては、誹謗中傷の投稿削除や誹謗中傷したアカウントの凍結を義務化すること。しかし、これについては対処の継続には無理があることから、根絶は不可能という課題があります。また、仕組み制度の改定の観点としては、ＳＮＳの匿名の廃止ということがありますが、各運営会社に委ねられるため干渉が不可能となってしまいます。また誹謗中傷を取り締まる法律の制定が必要だと考えています。

次に、学校いじめについて話していこうと思います。

いじめはなぜ起きるのかということですが、社会的欲求、いじりの延長、感情の衝突、加害者側の問題などが挙げられています。

いじめの解決方法ですが、単純なことではありますが、誰かに話すということです。またその誰がというのがとても重要で、年齢の近い人や身近な人、例えば両親、先生や先輩、第三者など、話しやすい人に話すことで少しは解決が見いだせるのではないかと考えています。

しかし、これの課題として先生では対応に期待がとても少ないこと、また、先生の認識が必要だということです。また、ホットラインが必要だと考えています。また、相手の性別・年齢を選べるような環境が必要だと考えています。やはり人によって話しやすい人、話しにくい人が変わると思うので、こういう制度があることでとても話しやすいのではないでしょうか。

また、加害者側のケアも大事だと思います。家庭環境の改善、第三者が加害者の話を聞く、趣味を見つけるため手助けをする。この趣味を見つける手助けをするというのは、やはり加害者側は、多分ではありますが、心の余裕がないことからそれを被害者側にぶつけてしまうことでいじめは起こってしまうと思うからです。

そしていじめを未然に防ぐ方法としては、保育園・幼稚園の頃から、レクや動画の視聴などを通して教育をしていき、小中高でもそれを継続していくこと。また、校則である程度縛るということが必要だと考えています。

まとめとして、ネットいじめは、様々な立場の人間が動く必要があること。学校いじめは、加害者・被害者問わず学校・家庭など周囲の環境の改善が必要だということ。また、幼いときからいじめに対する意識を育むということです。

５グループからの発表は以上です。御清聴ありがとうございました。

（髙島副議長）

ありがとうございました。

それぞれ皆さん、簡潔に、そして時間もしっかりと守っていただきました。

○グループディスカッション

（髙島副議長）

今発表いただいたことを基にこれから意見交換に入っていくわけですけれども、各班において、まずは自己紹介から始めていただければと思いますので、議員が、まず口火を切る形でお願いしたいと思います。ネームプレートがありますけれども、それぞれ皆さんお話をして、スタートしてください。そして進行役ですが、高校生に議員からバトンタッチをして進めるようにしてください。

それでは始めます。

【グループディスカッション　45 分】

○意見・感想等の発表

（髙島副議長）

皆様、とても充実して意義深い時間だったと思うのですが、そして、まだまだお話し足りないこともあるかもしれませんけれども、一応一区切りで、ここで意見交換を終了して、各班で話し合った内容の感想発表に移りたいと思います。

それぞれの班ごとに、高校生と議員合わせて４分程度で感想の発表をお願いしたいと思います。

それでは、まず１班から発表担当の生徒さん、お願いします。

（１班発表生徒）

こんにちは。自分たちの班では、まず長野県というのは一つの特長があるのではなくて、たくさんのいろいろないい特長というか、武器があるという話合いになって、また、最初に発表した資料にあるウィンタースポーツや酒蔵は外から見ての魅力であって、その土地に住んでいる人からしたらただの日常で、あまり魅力的ではないということ。また、県を越えて都会に出て行った人が帰ってこられないという話合いになって、そこで手続などのハードルがすごく高くて、また仕事がないと帰ってこようという気にならないということ。都会にいる人たちに帰ってきてもらう方法として、非日常ではなく、長野県にある日常、懐かしさだったりを伝えることによって帰ってきてくれるのではないかと思っているという意見が出ました。

また、ここからは少しＳＮＳの話になりまして、アルクマが普通の日常を送っていたら面白いのではないかという意見が出まして、アルクマを１人で飯田線に乗せる、はやっているダンスをさせる。あと、アルクマではなくて、この県議会とかにも興味を持ってもらうために議員が踊るとか、議員が料理をするという意見が出たりして、既存のＳＮＳの企画の中で

も意外性のあるものに目を向けて、今たくさんあるＳＮＳに上がっている企画でも、議員やアルクマがやることによって長野県の魅力が際立つのではないかと思っています。

また、高校生の話になりますが、高校生からしたら、すごく遊べる場所が少ない地域がたくさんあって、本当に遊べる選択肢が少なくて退屈してしまうという人たちがたくさんいるという話になりました。

最後に、長野県は条件が当てはまればとても住みやすい場所で、子育てをしたりというのにはとてもいい環境がそろっていると思います。そしてその中でも職や生活がどれだけ安定するかというのがとても大事になってくるものなのかと思って、さらに若者が出て行く原因として目指せるものが少ない。長野県では目指せるものが少ないから出て行ってしまうのではないかという話合いになりました。

（髙島副議長）

次に、広報委員の寺沢議員、感想をお願いします。丸山議長には、後ほど全体の所感の中で感想を述べていただきます。

（寺沢議員）

１班では、最終的には、１班の参加者の高校生さんがだいぶＳＮＳに詳しくて、高校生がプロデュースをするので、ぜひ県議会や県で TikTok をやってはどうかという話がありました。

議長がアルクマと一緒にダンスを踊るという大変面白い案も出されました。

ぜひ、議会、あるいは県からそういった TikTok やＳＮＳを使った情報発信ができればと思っていますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

（髙島副議長）

では、２班の発表担当の生徒さん、お願いします。

（２班発表生徒）

こんにちは。今回私たちのグループは、しっかりとテーマを固めて話したわけではないのですが、私たちの先輩に当たる議員の方のお話をお聞きして、やはり将来について今から考えていかなければいけない。高校生として、まず自分の興味があることだったり、こういう道に進みたいと思ったことに対して自分からリサーチをかけていったり、情報をまず集めていくことが大切だと思いました。

また、今回のようなディスカッションの場が自分たちにとって本当に大切だなと思って、私たちはこういう機会があったからお話をお聞きすることができたりするのですが、ほかの生徒はこういう場がないわけで、やはり学校としてもそういう機会を設けていくことが、生

徒自身が進路を決定していくうえですごく大事になるのではないかと思いました。
　また、最後にお話いただいたのですが、今、少子化が進んでいて、学校数自体が減っていくという見通しがあるわけで、マイナスのイメージを持たれている方が多いかと思うのですが、母数が減る分、学歴の評価もまたこれから将来変わっていくのではないかという話をいただいて、とても前向きな気持ちになれて有意義な会になりました。ありがとうございました。

（髙島副議長）
　次に、両角議員、感想をお願いします。

（両角議員）
　今日は貴重な機会を与えていただきましてありがとうございました。
　皆さん、夢がちゃんとあって、スタイリストになりたいかな、ミュージシャンがいいかな、テレビドラマが好きだなという感じからスタートしているのですが、一定の人生のプランのようなものを、もやっとしているのですが持っていらっしゃる。そして話の中では、夢をかなえてみたいという、なんかいいなと。要するに、それぞれの方が自分を持っていて、人生を考えることができて、しっかり進んでいこうと。
　このような会も、先生とか先輩とかというと少し視野が狭くなるので、今日のようにまるきり違う人たちと話ができたことがプラスになったというようなことを言っていただいたので。私としてもいい会だったなと思います。
　これからもこういう会が毎年毎年やられるのでしょうけれども、気軽に我々と話してもらえればいいのかなと思います。ありがとうございました。

（髙島副議長）
　では、３班の発表担当の生徒さん、お願いします。

（３班発表生徒）
　私たちの班は、校則について議論したのですが、その中でも特に身だしなみについて、例えばどうして髪色を変えるのはいけないのかとか、制服はスカートなのにスカートが禁止の校則があるのは何でなのかについて話し合って、具体的な解決方法がたくさん出てきました。
　それで、やってみたいこととして、先生たちに校則が必要かどうかをアンケートを取ってみるとか、ＯＢとかＯＧ、同窓会の人たち、校長先生と話し合う機会をつくること、あとは先生が全部の内容を把握しているのかを確かめてみたい点と、生徒にどの校則を変えたいかというアンケートを取って、それをランキングにして上から順番に解決していくということ。この県議会の報告会を兼ねて、校長先生方にプレゼンをするなどです。

解決するために必要なことは、生徒会長や先生などで表立っている人を味方につけて変えていくということです。あとは、先生たちに言いたいことがあって、職員会で意見を出す場があって、その企画を通すときに、生徒のいない場で審議されて結局その企画が落とされてしまうということが挙げられたので、職員会の審議に生徒会役員などの生徒も交えて審議が行われればいいと思います。

議員さんがおっしゃっていたのですが、今も昔も校則で結構悩んでいることが多くて、日本は進化していないということです。それが日本らしさでもある、日本のいい文化でもあるかもしれないけれども、海外とかに比べるとやはり日本は遅れている部分があると思うので、今回見つかった具体的な解決方法で、自分たちのしたい学校生活に校則を変えていけたらいいと思います。以上です。

（髙島副議長）

次に、広報委員の竹内議員、感想をお願いします。

（竹内議員）

大変お疲れさまでした。ありがとうございました。最初に自己紹介で今日議会を傍聴しての感想を聞かせていただいたときに、自分たちの地域から選挙で選ばれた議員たちがちゃんと議論していて安心したと言っていただきまして、大変うれしくなりました。

そして、プレゼンは全ての班がとてもすばらしかったと思っています。校則のプレゼンも非常に説得力があってすばらしかったと思いますし、話合いの中でもすごく、今聞いていただいて分かるように具体的な対策といいますか、自分たちにできることを考えていらっしゃって、大変これからの皆さんの活躍が楽しみになりました。

大変貴重な機会をいただきまして、本当にありがとうございました。また気軽に議員に声をかけていただきたいと思います。ありがとうございました。

（髙島副議長）

では、４班の発表担当の生徒さん、お願いします。

（４班発表生徒）

こんにちは。４班では、ＩＣＴの活用に関しての議論をしました。学校の教育内でＩＣＴが適切に活用されているかどうかの話合いを中心に進んでいき、実際学校の先生とかがＩＣＴ機器をうまく使えていなかったりということが問題点として挙がりました。

そこで対策として、どこの学校の生徒でも共通して一定数ＩＣＴの活用に慣れている生徒がいるということがあったので、そういう生徒を中心にＩＣＴ管理局のようなものをつくり、ＩＣＴを使うのが苦手な生徒だったり、苦手な先生とかにＩＣＴの使い方を教えるようなこ

とが出来れば、学校内でのＩＣＴがより適切に活用されたり、生徒と先生間の仲が深まり、学校内教育が良いものになるのではないかという意見が出ました。

また、学校によってＩＣＴに制限があったりして使えないサイトがあったり、そういうものが格差で嫌だなというのがあったので、県内全体でＩＣＴのガイドラインのようなものを作成し、そういうものを中心にＩＣＴをより適切に活用できたらいいなという話合いになりました。

しかし、ＩＣＴを使えばいいというわけでもなく、実際に自分の目や耳、感覚などを使って物事を感じ取ることも大切ではあるので、実際に自分で感じ取るようなことを忘れずに、ＩＣＴを使っていけたらいいなという話合いになりました。ありがとうございます。

（髙島副議長）

次に、広報委員の清水議員、感想をお願いします。

（清水議員）

広報委員の清水です。今まとめていただきました管理局、自分たちの中でたけた者で不得手な人を助けるみたいな、そんなものを学校でという話になりまして、議会のほうでも来年はタブレットを入れてＩＣＴ化が進むはずですので、参考にさせていただきたいと思っています。

あと、小学校、中学校、高校とかで、やはり機器が違ったり、使うものが違ったりする中で、ガイドラインみたいなものがあればいいというのを要望として考えていくという話があったので、ぜひそういうものを考えていただいて、議会のほうにも要望をいただいて、それを参考にまた議会もしっかり使えるようになれればいいということを思いました。

あと、先ほどもあったとおり、デジタルとアナログの部分では、やはり感性などに触れるものは、どうしてもデジタルではできないものとして、そういうものを大事にしてほしいと生徒の皆さんから話があったので、ありがたいなと。これからデジタルはもっともっと進んでいくと思うのですが、デジタルはあくまでも道具ですので、それをうまく使えるような人たちに育っていってほしいなと、そんなことも話合いの中から感じました。以上です。今日はありがとうございました。

（髙島副議長）

最後になりました。５班の発表担当の生徒さん、お願いします。

（５班発表生徒）

僕らはいじめについて話し合ったのですけれども、前半はネットいじめについて、後半は学校いじめについてで、ネットいじめについては「いいね」とかで同調圧力がしやすいとい

うことでした。話し合っている間にリアルないじめのことになったのですが、逃げる勇気も必要だということ、そして学校のいじめについては、学校のいじめだと小さい箱の中だと逃げ切れない、子どもだからあまり遠くへ行けなかったりするということでした。

今回大人の議員さんたちと話させていただいて、「子どもたちには大人の話はあまり心に響かない気がするので、まず子どもだけで話し合ってみてはどうか」という意見もありましたが、大人たちとも話し合っていけたらと思います。

それと、話合いの中で人生の話とか、職場の話のほうになり、いじめは学校とかネットだけじゃなくて、職場とか人生にだって悩むことがあり、そういうものかなと思いました。

（髙島副議長）

次に、広報委員の和田議員、感想をお願いします。

（和田議員）

今日は本当にいろいろなグループで話合いをされたのですが、５班ではいじめについてということで、これは重たい課題かなと思いましたけれども、ざっくばらんにいろいろ話を聞いていく中で、実際に自分自身いじめの経験があったけれども、頑張って学校に行ったら少しぐらいのことは平気になったというか、もう自分でそれを乗り越えることができたというお話を聞いてすごいなと。

もう一方では、少し不登校の経験もあったけれども、コロナでみんなが学校に行けなくなってから、逆に自分は今度は学校に行けるようになったとか、つらい経験とか、ピンチを何とかチャンスに変えたというお話を聞くこともできて、みんな一人一人が人間力があるなということを感じましたし、何で頑張って学校に行けたのかと聞いたら、やはり勉強して学校で学ぶことが楽しかったからという話を聞けて、本当の意味での学校の役割を、この短い時間の中でも感じることができました。

ただ残念だなと思ったのは、やはり先生方がとても忙しくて相談できそうもないということを日頃生徒さんが感じていること。そして、友達や親に相談するにもやはり気にして、心配かけちゃいけないとか、親も忙しいしと思っているということも聞けて、慌ただしく毎日毎日忙しくしている中で、思いもかけない気持ちがいじめという形に現れてしまうということが、皆さんと話している中で分かったというか、改めて確認したのですが、いじめをされるほうも、そして加害、いじめるほうも、やはりどちらの立場に立ってもサポートが必要だねという話もありまして、いじめているほうの人に対してもしっかりサポートができるということも本当に大事だということを気づかせていただきました。

今日は本当にありがとうございました。

（髙島副議長）

気持ちが高まったり、温まってきて、皆さん、様々収穫があったのかなと思っています。

○長野県議会議長所感

（髙島副議長）

最後に、この議会の一番の責任者であります丸山議長から、全体の感想とお礼の御挨拶を申し上げます。

丸山議長、お願いします。

（丸山議長）

それでは私のほうから、一言御挨拶を申し上げます。

本日は限られた時間の中でありますが、高校生の皆さんからは熱心なプレゼンテーションをいただき、また活発な意見交換、和やかにさせていただきました。大変感謝申し上げる次第であります。高校生の皆さんの熱い思い、また切実な思いに触れることができまして、今日は大変有意義な時間だったと私は思います。

私が参加をさせていただきましたグループは、長野県の課題と魅力発信をテーマに意見交換をさせていただきました。このテーマにつきましては、県議会としても第一に取り組まなければいけない課題でありますが、なかなか難しい課題でもございます。本日皆さん方の御意見をお聞きし、幾つも気づきを与えていただき、大変参考になったところでございます。

発表をそれぞれいただいたところでございますが、我々のふるさとであるこの長野県は、全国に誇れる魅力をたくさん持っている県でございますが、なかなかその魅力を発信できない状況にもあるわけです。そういった魅力をＰＲしていくことは私たち県議会も常に模索をしているところでございますが、今日はそれぞれ御意見をいただき、アルクマのキャラクターを使った目に見えるものを発信したらいいのではないかという御意見を頂戴しましたし、長野県はＳＮＳが遅れているんじゃないのという御意見もいただきました。魅力を発信していくために、ＳＮＳの活用は大変重要だということも、私たち結構年をしていてＳＮＳはなかなか身近ではなかったのですが、気づきをいただきました。

本日いただいたそれぞれの意見を長野県の将来を担う皆さんの御意見として参考にさせていただきたいと思っているところでございます。

私たち議員は、本日の皆さんの考え、また意見をしっかりと受け止めながら、今後の議会活動に活かしていかなければならないと思っているところであります。本日をきっかけといたしまして、今後も県議会の活動に関心を持っていただくことを御期待申し上げますとともに、皆さんの将来の活躍を御祈念申し上げ、私からの御挨拶とさせていただきます。

本日は大変ありがとうございました。

（髙島副議長）
　丸山議長、ありがとうございました。

○閉会

（髙島副議長）
　さあ、楽しい時間もこれで終わりになってしまいます。生徒の皆さん、そしてこの会場にお集まりの皆様方、長時間にわたりまして、誠に熱心に御参加いただいたりお話しいただきまして本当にありがとうございました。
　以上をもちまして「『こんにちは県議会です』～高校生徒の意見交換会～」終了といたします。